

専攻教育課程照合表

専門看護分野：がん看護

	科目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	認定 単位
専攻分野 共通科目	1. がん看護に関する病態生理学	がん看護学特論Ⅰ	多様ながんの病態について事例を用い、多角的視点からアセスメント方法を学び、エビデンスに基づき臨床判断できる能力を習得する。	2	2
	2. がん看護に関する理論	がん看護学特論Ⅱ	がん看護を実践するうえで基礎となる、危機理論、ストレス理論、セルフケア理論などを学び、事例を用い活用方法を探求する。	2	2
	3. がん治療支援に関わる看護援助論	がん看護学演習Ⅰ	がん患者・家族に対する看護支援に必要な理論や概念(ACP 含む)を学び、病名・予後告知、治療選択、治療中の QOL の維持向上にむけた看護支援を探求する。	2	2
専攻分野 専門科目	1. がん薬物療法看護	がん看護学特論Ⅲ	がん薬物療法を受ける患者の体験を理解し、有害事象の予防と対処方法、症状マネジメントの方略を学び、患者・家族に必要な看護支援を探求する。	2	2
		がん看護学演習Ⅱ	がん薬物療法を受ける患者への看護支援についてベットのサイドティーチングを受け、特論Ⅲでの学びを実際の看護援助場面を通し理解を深める。さらに、事例分析を行い望ましい看護支援の方略を探求する。	2	2
	2. 緩和ケア	がん看護学特論Ⅳ	End of Life Care、がんによりもたらされる苦痛の緩和に必要な看護支援の方略を学び、事例分析により患者・家族の QOL 向上に必要な看護支援を探求する。	4	4
実習科目	実習	がん看護学実習 (10 単位) ・がん看護学実習Ⅰ	がん看護学実習Ⅰ (CNS 役割実習 2 単位) がん看護専門看護師に必要とされる実践、教育、相談、調整、研究が自律して実践できる能力を養う。	2	2
		・がん看護学実習Ⅱ	がん看護学実習Ⅱ (上級看護実践実習 4 単位) がん薬物療法の治療に応じて発生する複雑な問題に対し高度な看護実践能力を習得する。	4	4
		・がん看護学実習Ⅲ	がん看護学実習Ⅲ (上級看護実践実習 4 単位) がん治療に応じた苦痛の緩和、終末期の疼痛マネジメントや症状緩和などを中心とした看護支援に重点を置き、高度な看護実践能力を習得すると同時に地域連携の実践を学ぶ。 また、がん看護学実習Ⅱ、Ⅲでは診断・治療に伴う臨床判断、身体管理について学び、ケアとキュアを融合した看護実践能力を習得する。	4	4
				認定合計単位 24 単位	

がん看護学特論Ⅰ

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 量 倫子（本学講師）

1. 教育目的：多様ながんの病態について事例をもとに、その検査データや臨床所見などをもとに討議を行い、多角的視点から病因・病態を解析、アセスメント方法を学び、エビデンスに基づき臨床判断できる能力を修得する。
2. 教育目標：1)がんの臨床所見から病態を理解するための知識を養う。
2)事例の討議からアセスメント方法を学ぶ。
3)学んだ知識から看護ケアに活用できる能力を養う。
3. 教育内容：
 - ① がんの特異とされる病因・病態像(総論)
 - ② がんの治療1(各論)
 - ③ がんの治療2(各論)
 - ④ 呼吸器に発生する悪性腫瘍の病因・病態像とデータ解析(その1)
 - ⑤ 呼吸器に発生する悪性腫瘍の病因・病態像とデータ解析(その2)
 - ⑥ 女性生殖機能に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析(その1)
 - ⑦ 女性生殖機能に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析(その2)
 - ⑧ 消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析(その1)
 - ⑨ 消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析(その2)
 - ⑩ 消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析(その3)
 - ⑪ 消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析(その4)
 - ⑫ 代謝機能に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析
 - ⑬ がんに伴う諸症状の病態生理とアセスメント(その1)
 - ⑭ がんに伴う諸症状の病態生理とアセスメント(その2)
 - ⑮ まとめ
4. 教育の進め方：講義を中心とし、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
 - (1) 講義：①～⑫
 - (2) プレゼンテーション：⑬～⑮
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学特論Ⅱ

2単位：30時間（春学期）

科目責任者 橋爪 可織（本学講師）

1. 教育目的：がん看護の實踐に必要とされる主要な理論の基礎を学び、さらに事例を用いて理論の活用方法について探求する。
2. 教育目標：1)がん看護に必要な理論を理解できる。
2)がん患者がたどる急性期、慢性期、終末期の援助の基礎となる理論について理解できる。
3. 教育内容：
 - ① ガイダンス、がん看護に必要な理論の概説
 - ② がんサバイバーシップ
 - ③ 治療選択に必要とされる意思決定論
 - ④ 治療選択に必要とされる意思決定論
 - ⑤ がん患者が直面する危機的状況の回避に必要とされる理論(危機理論)
 - ⑥ がん患者が直面する危機的状況の回避に必要とされる理論(ストレス理論)
 - ⑦ がん患者の治療継続に必要とされる理論(セルフケア理論 1)
 - ⑧ がん患者の治療継続に必要とされる理論(セルフケア理論 2)
 - ⑨ 終末期に必要とされる理論(Loss&Grief)
 - ⑩ 終末期に必要とされる理論(ホスピスケア論)
 - ⑪ がん患者に必要とされる倫理
 - ⑫ 理論を活用した事例分析(事例展開)
 - ⑬ 理論を活用した事例分析(事例展開)
 - ⑭ 理論を活用した事例分析(事例展開)
 - ⑮ まとめ
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
(1)講義：①～⑥⑨⑩⑪
(2)プレゼンテーション：⑦⑧⑫～⑭
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学特論Ⅲ

2単位：30時間（秋学期）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的：がん薬物療法を受ける患者の体験を理解し、有害事象の予防と対処方法、症状マネジメントの方略を学び、患者・家族のQOL向上に必要な看護支援の方法を探究する。
2. 教育目標：1)がん薬物療法を受ける患者・家族の特徴が理解できる。
2)治療による有害事象に対する症状マネジメントについて理解できる。
3)治療中のQOL維持を目的とした患者教育の方法が説明できる。
3. 教育内容：
 - ① ガイダンス、がん薬物療法総論
 - ②③ がん薬物療法を受けるがん患者・家族への看護支援
 - ④⑤ がん薬物療法を受ける患者の情報収集とアセスメント
 - ⑥⑦ がん薬物療法における有害事象の予防・早期発見・早期対処
 - ⑧⑨⑩がん薬物療法により生じる有害事象に対する症状マネジメント
 - ⑪⑫ がん薬物療法を受ける患者へのチームアプローチ
 - ⑬⑭ がん薬物療法の臨床試験に参加する患者・家族への看護支援
 - ⑮ 外来通院においてがん薬物療法を受ける患者・家族への看護支援、まとめ
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
 - (1)講義：①～⑤⑪～⑭
 - (2)プレゼンテーション：⑥～⑩⑮
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学特論Ⅳ

4単位：60時間（秋学期）

科目責任者 量 倫子（本学講師）

1. 教育目的：End of Life Care、がんによってもたらされる苦痛に対し、その症状緩和に必要とされる看護支援に焦点をあて、緩和ケアの方略を探求する。また、患者と家族の苦痛を全人的にとらえ、QOL向上に必要なキュアとケアを統合し提供する能力を習得する。
2. 教育目標：1)がん患者・家族の苦痛を身体、心理、社会、霊的な側面より理解することができる。
2)症状緩和をはかるためのアセスメントおよびそのアプローチ方法が説明できる。
3)事例分析によりがん患者・家族のQOL向上に必要な援助を説明することができる。
3. 教育内容：
 - ①② ガイダンス、緩和ケアの概念
 - ③④ 我が国および諸外国における緩和ケアの現状
 - ⑤⑥ 緩和ケアを必要とする患者・家族の理解と看護支援
 - ⑦⑧ 緩和ケアを必要とする患者・家族の倫理的課題
 - ⑨⑩ 緩和ケアを必要とする患者の全人的苦痛の理解と援助
 - ⑪⑫ 緩和ケアを促進するチームアプローチ
 - ⑬⑭ 治療に伴う症状緩和(疼痛マネジメント)
 - ⑮⑯ 治療に伴う症状緩和(症状マネジメント)
 - ⑰⑱ 治療に伴う症状緩和(症状マネジメント)
 - ⑲⑳ 治療に伴う症状緩和(リラクゼーション法)
 - ㉑㉒ スピリチュアルペインのアセスメントと看護支援
 - ㉓㉔ 緩和ケアを必要とする患者の援助の実際(ホスピス、緩和ケア病棟)
 - ㉕㉖ 緩和ケアを必要とする患者の援助の実際(在宅)
 - ㉗㉘ 緩和ケアを必要とする患者のQOL維持向上への援助(事例分析1)
 - ㉙㉚ 緩和ケアを必要とする患者のQOL維持向上への援助(事例分析2)、まとめ
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
 - (1)講義：①～⑫㉑～㉖
 - (2)プレゼンテーション：⑬～⑳㉗～㉚
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学演習 I

2 単位：60 時間（春学期）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的：がん患者と家族の特徴を理解し、複雑な健康問題に対し包括的な支援ができるよう専門的アプローチに必要な理論や概念（ACP 含む）を学ぶと同時に、病名・予後告知、治療の選択、治療中の QOL の維持向上にむけた看護援助を探究する。
2. 教育目標：
 - 1) がん患者・家族の特徴を理解できる。
 - 2) 理論や概念を活用し専門的アプローチの方法が理解できる。
 - 3) がん治療に応じた看護援助の方法が説明できる。
3. 教育内容：
 - ①② ガイダンス、がん看護の専門性と役割機能
 - ③④ がん看護に必要とされる理論と概念
 - ⑤⑥ がん患者・家族の理解
 - ⑦⑧ がん患者・家族を支える援助
 - ⑨⑩ がん患者の病名・予後告知における援助
 - ⑪⑫ 治療選択を必要とするがん患者・家族の援助
 - ⑬⑭ がん患者の意思決定を支える援助
 - ⑮⑯ がん患者の抱えるストレスに対する援助
 - ⑰⑱ がん患者の危機とその対処方法への援助
 - ⑲⑳ 手術療法を必要とするがん患者の援助
 - ㉑㉒ 薬物療法を必要とするがん患者の援助
 - ㉓㉔ 放射線療法を必要とするがん患者の援助
 - ㉕㉖ 疼痛マネジメントを必要とするがん患者の援助
 - ㉗㉘ がん治療における諸症状の緩和に必要とされる援助
 - ㉙㉚ がん患者の治療過程における QOL 維持向上への援助、まとめ
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
 - (1) 講義：①～⑩㉙㉚
 - (2) プレゼンテーション：⑪～㉘
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学演習Ⅱ

2単位：60時間（秋学期）

科目責任者 橋爪 可織（本学講師）

1. 教育目的：がん薬物療法を受ける患者の有害事象に対するアセスメント、援助法を習得し、治療中のQOL向上をはかる看護支援について探求する。
2. 教育目標：
 - 1) がん薬物療法を受ける患者・家族への教育支援技術が理解できる。
 - 2) 治療による有害事象に対する症状マネジメント方法の実際が説明できる。
 - 3) 患者教育の実際から必要とされる看護支援方法が説明できる。
3. 教育内容：
 - ①② ガイダンス がん薬物療法を受ける患者・家族の理解
 - ③④ がん薬物療法を受ける患者への教育支援技術演習(1)
 - ⑤⑥ がん薬物療法を受ける患者への教育支援技術演習(2)
 - ⑦⑧ がん薬物療法を受ける患者への教育支援技術演習(3)
 - ⑨⑩ 外来がん薬物療法を受ける患者へのチームアプローチ方法の実際
 - ⑪⑫ 外来がん薬物療法（化学療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(1)
 - ⑬⑭ 外来がん薬物療法（化学療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(2)
 - ⑮⑯ 外来がん薬物療法（化学療法）を受ける患者・家族への看護支援(事例検討)
 - ⑰⑱ 外来がん薬物療法（免疫療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(1)
 - ⑲⑳ 外来がん薬物療法（免疫療法）を受ける患者・家族への看護支援 演習(2)
 - ㉑㉒ 外来がん薬物療法（免疫療法）を受ける患者・家族への看護支援(事例検討)
 - ㉓㉔ 外来で内分泌療法を受ける患者・家族への看護支援 演習(1)
 - ㉕㉖ 外来で内分泌療法を受ける患者・家族への看護支援 演習(2)
 - ㉗㉘ 外来で内分泌療法を受ける患者・家族への看護支援(事例検討)
 - ㉙㉚ がん薬物療法を受ける患者・家族の看護支援方法まとめ
4. 教育の進め方：講義・演習、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。

病院においてベットサイドティーチングを受け、講義で学んだことを実際の看護援助場面から理解を深め、さらに事例検討を行い看護援助の方向性を見出す。

ベットサイドティーチングは杏林大学病院外来室にて実施する。

初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

がん看護学実習

10単位：450時間（春・秋学期）

実習Ⅰ（2単位）、実習Ⅱ（4単位）、実習Ⅲ（4単位）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的：がん看護領域において、がん看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度なアセスメント能力とエビデンスに基づく的確な臨床判断ができる能力を修得し、専門看護師に必要とされる卓越した実践、教育、相談、調整、研究が自律して実践できる能力を探究する。
2. 教育目標：1)がん専門看護師の役割を理解し、卓越した実践、教育、相談、調整、倫理調整、研究ができる。
2)がん患者・家族に対し、がん看護の専門性、特殊性を踏まえたアセスメントと臨床判断ができる。
3)がん診断、治療に伴う臨床判断、身体管理について学び、キュアの知識と高度なケア技術を用いてがん患者および家族に対して看護実践ができる。
4)がん患者・家族が抱える倫理的問題に対し、対象者の尊厳を守りながら問題解決をはかることができる。
3. 実習目標：
1)実践：がん患者・家族(集団)に対する卓越した看護実践能力を磨く。
2)教育：看護職者に対するケアの質向上のための教育的機能を果たす。
3)相談：看護職者和其他のケア提供者に対するコンサルテーション(相談)機能を実践する。
4)ケア調整：円滑なケア提供のためのコーディネーション(調整)機能を実践する。
5)研究：専門知識・技術、システムの向上や開発を図るための研究的取り組みを行う。
6)倫理調整：倫理的な葛藤や問題が生じた場合に対処、解決を図る。
4. 教育の進め方：
1)実習はがん看護学実習Ⅰ：CNS 役割実習 2 単位、がん看護学実習Ⅱ：上級看護実践実習(がん薬物療法看護分野 4 単位)、がん看護学実習Ⅲ：上級看護実践実習(緩和ケア分野 4 単位)とし実施する。詳細は実習要項を参照すること。
2)実習場において実習担当教員の指導とがん専門看護師を始めとする各施設の実習指導担当者における指導を受けながら実習を進める。なお、がん診断、治療に伴う臨床判断、身体管理については、がん医療を専門とする医師の指導受けながら実習を進める。
3)専門看護師の役割(実践、教育、ケア調整、相談、倫理調整)について実習した内容を記録し、実習目標達成のための実習計画、修正をしながら実行する。
4)専門看護師の役割(実践、教育、ケア調整、相談、倫理調整)について実習した内容を事例に基づきレポートする。
5. 実習施設：杏林大学医学部付属病院、桜町病院 聖ヨハネホスピス、たんぽぽクリニック 多摩たんぽぽ訪問看護ステーションにて実施する。
6. 成績評価方法：最終提出レポート(100%)にて評価。

がん看護学実習の目標と内容

がん看護学実習Ⅰ（２単位）：〔CNS 役割実習〕

がん専門看護師の役割である、実践、教育、相談、ケア調整、倫理調整、研究について、実際に臨床の場でどのように実践されているかをがん専門看護師のスーパービジョンを受けながら理解し学ぶ。また、この実習を通しがん専門看護師の役割開発を行う能力を養うことができるようにする。

がん看護学実習Ⅱ・Ⅲ（各４単位）：〔上級看護実践実習〕

上級看護実践実習は、がん薬物療法看護、緩和ケアの２分野において実施する。

がん専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得できるようにする。がん診断、治療に伴う臨床判断、身体管理について学び、キュアとケアを融合した高度な看護実践ができるよう、がん専門看護師およびがん専門医師の指導を受けながら実習を行う。

〔実習目標と内容〕

実習目標	実習内容
1. 実践 がん患者・家族に対する卓越した看護実践を行う。	複雑で困難な問題を有する対象に対し、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプラン作成をし、質の高い卓越した看護実践を行う。また、がん診断・治療に伴う臨床判断、身体管理について体験しその知識と技術を生かした看護実践を行う。
2. 教育 看護職者に対するケアの質向上のための教育機能を果たす。	他の看護職者への教育を講義・演習で培った知識や技術を基に、指導者と共に実践する。
3. 相談 看護職者と他のケア提供者に対するコンサルテーションを実践する。	複雑で困難な実践状況において、看護職者や他のケア提供者に対し、がん看護の専門的立場での相談や意見の提供を指導者と共に実践し、問題への対処、解決を図る。
4. ケア調整 円滑なケア提供のためのコーディネーションを実践する。	複雑な問題を有する事例に対し、継続したケア提供を円滑に実施するために、他職種との連携、調整を図る。
5. 研究 専門的知識・技術の向上や開発を図るため研究活動に取り組む。	がん看護分野において、研究的取り組みを必要とする課題を見出し、問題解決やケアの質的向上に向けた研究活動を実践する。
6. 倫理調整 倫理的な葛藤や問題が生じた場合、解決への取り組みを図る。	がん看護分野における倫理的課題に対し、患者・家族、ケア提供者間に立ち、問題解決や対処のための様々な検討を行い、調整を図る。